

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 

教務・学生連絡会議
-----------

(責任者名) 

貝谷 敏子
-------

  
 (役職名) 

教務・学生連絡会議委員長
--------------

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「現代社会論E（情報科学）」は2025年度にデザイン学部および看護学部の1年次学生を対象として開講され、履修者数は12名（デザイン学部10名、看護学部2名）であった。履修者のうち11名が単位を修得しており、初年次科目として概ね良好な修得状況であると評価できる。履修者数は開講時間帯の影響を受けてか少人数であったが、履修学生はいずれも授業への参加意欲が高く、各回の小テストや期末課題を通じて継続的に学修に取り組んでいたことが確認されている。
学修成果	本科目において、小テストおよび各回の感想は意欲的なものが多く、また授業評価アンケートにおいても、回答者全員が「学んだことを今後活用できる」と回答しており、数理・データサイエンス・AIを課題解決のためのツールとして捉える視点が一定程度育成されたと評価できる。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	授業評価アンケートの結果から、授業の進行スピード、要点の整理、教員の説明や配布資料の有用性については、多くの学生から肯定的な評価が得られている。特に、質問や意見に対する教員の対応については全員が「誠実だった」と回答しており、理解を促進する学習環境が整っていたと考えられる。一方で、授業内容の難易度については「やや難しかった」「難しかった」と感じた学生も一定数存在している。今後は、概念説明において具体例や身近な題材をより多く取り入れ、学生の理解度をさらに高める工夫が必要である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本科目の履修を他の学生に推奨するかという設問に対しては、「推奨しようと思う」「やや推奨しようと思う」と回答した学生が大半を占めている。これは、授業内容が数理・データサイエンス・AIへの興味を喚起し、今後の学修や生活に役立つと実感された結果であると考えられる。また、担当教員以外のAITセンター教員による講演回については、「良い経験になった」との自由記述もあり、授業全体への満足度や価値認識の向上につながっている。今後も、学部や専門を問わず履修を勧められる内容となるよう、授業構成の工夫を継続する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本科目は選択科目として開講されており、開講時間の制約もあることから履修者数は限定的であった。一方で、履修した学生の評価は総じて高く、学修意欲や満足度の面では一定の成果が得られている。今後は、ガイダンスやポータルシステムを用いた学内での情報発信やシラバス記載の工夫を通じて、全学的な履修促進に貢献していく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本科目は1年次向けの基礎的科目であるため、現時点で教育プログラム修了者の進路や企業からの直接的評価を把握する段階には至っていない。しかし、本授業で育成を目指す数理・データサイエンス・AIに関する基礎リテラシーや課題発見能力は、産業界において広く求められている汎用的能力と合致している。学生が専門分野に進んだ後も、データやAIを活用した思考の基盤として本授業での学修内容が活かされることが期待される。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>現時点では産業界からの具体的な意見は得られていないが、今後も数理・データサイエンス・AIに関する社会的な動向を本科目の授業内容に反映する。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本科目は数理・データサイエンス・AIを難解な専門技術として扱うのではなく、日常生活や学生自身の専門分野と結び付けて理解させることを重視している。授業評価アンケートにおいても、数理・データサイエンス・AIへの興味が広がったと感じた学生が多く見られ、学ぶ楽しさを一定程度伝えることができたと考えられる。今後も学生の主体的な気づきを促す授業設計を継続する。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本科目は数理・データサイエンス・AIの基礎を中心に、AITセンター教員の研究事例の紹介なども行いながら一定の学修水準を確保している。一方で、難易度を高く感じる学生が存在したことを踏まえ、今後は説明方法の改善に取り組む。具体的には、専門用語の整理、具体例や図解の充実、理解目標の明確化などを通じて、内容の水準を維持したまま理解しやすい構成とする。これにより、多様な背景をもつ学生が安心して学修に取り組める授業を実現していく。</p>